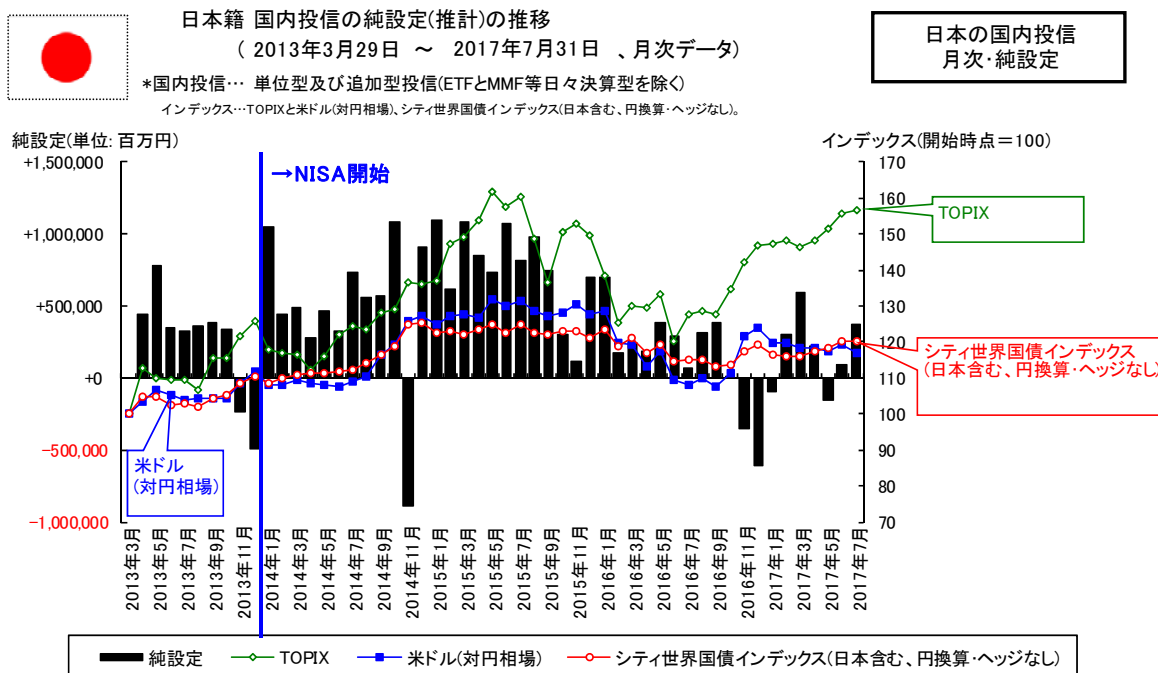


株高の7月、既存投資家は2カ月連続の資金純流入

毎月恒例となっているNISA(少額投資非課税制度)の投資動向についてである。今回は最新7月を見る。NISAの投資家を、既存投資家と投資未経験者(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する。投信を見るのは、NISAの買付額の6割が投信となっているからである(*NISA開始の2014年1月から2017年3月までの買付総額は10兆5469億円で、うち、投信60.6%、上場株式36.8%、ETF1.6%、REIT1.0%～URLは後述[参考ホームページ]①)。

まずNISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2017年7月に+3663億円と、2カ月連続の資金純流入で2017年3月以来の大きな純流入だった。7月はNYダウが7月31日に21891.12と史上最高値を更新(8月も続伸)、日経平均株価は6月20日に20230.41円と2015年8月18日以来1年10カ月ぶり高値まで戻して、その後は2万円前後で推移する相場である。

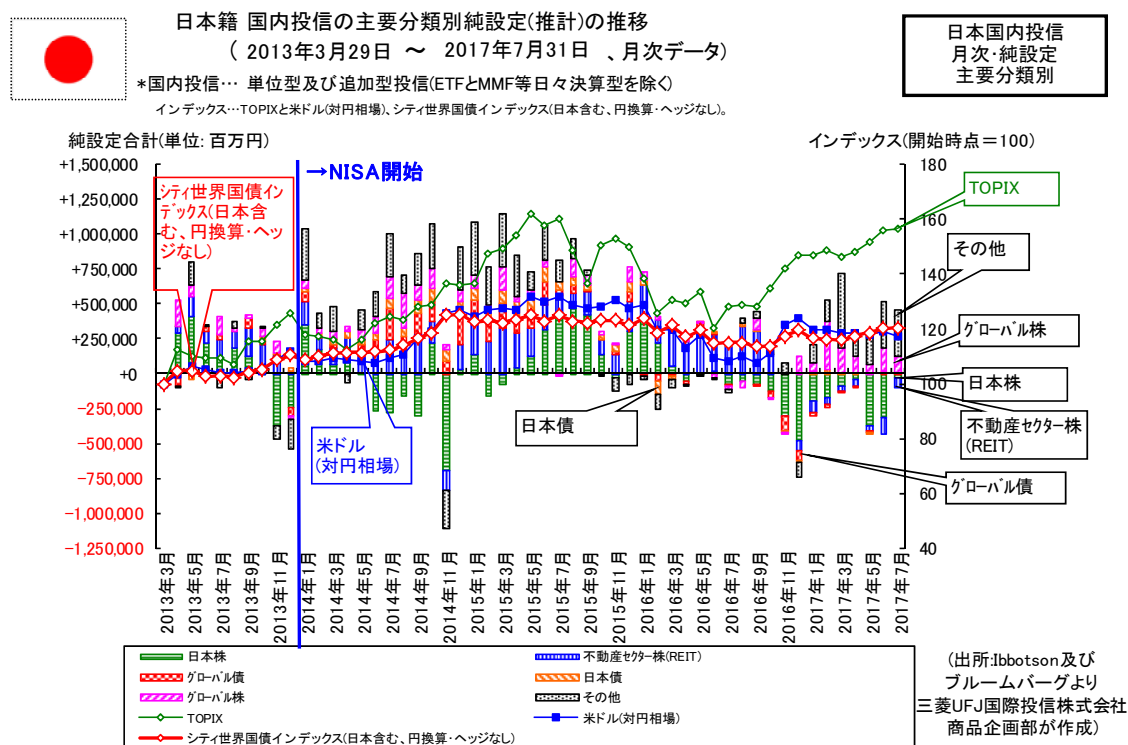


(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

NISAの既存投資家はグローバル株やアロケーションファンド、インド株などを志向

2カ月連続の純流入となった7月の純設定を投資対象(主要分類)別で見ると、2017年7月に最も純設定の大きかったのはグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型、インド株、エマージング債、アジア株(除く日本)だった(次頁グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション柔軟型、インド株、エマージング債、アジア株は「その他」に含まれる)。前月6月と1位のグローバル株は同じで、2カ月連続で同じ分類が1～3位を占めている。

純設定が最も大きかったグローバル株は7月に+1199億円と、前月6月(+1638億円)を下回るものの、8カ月連続の純流入となっている。グローバル株に多く、2017年の大型新規設定で注目される人工知能(AI)関連ファンドは7月も引き続き純流入だった。人工知能(AI)関連ファンドへの人気については2017年3月6日付日本版ISAの道 その174を参照(URLは後述[参考ホームページ]②)。



グローバル株に次いで、アセットアロケーション型にも2016年の純流入傾向が継続しているが、7月は新規設定されたファンドによるところも大きい。「従来の主流だった不動産投資信託(REIT)など相対的に利回りの高い資産で運用する投信ではなく、長期投資に適したタイプの設定が増えている。新規設定の投信は株式や債券など複数の資産に投資する「バランス型」が多い。」(2017年7月21日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]③)と報じられていた。2017年7月の公募投信の新規設定ファンドは41本、うちアロケーション型が8本と前月6月の42本中1本を上回る増加傾向だ(←5月は18本中6本←4月は30本中7本)。また設定額でも、7月に新規設定されたアロケーション型は、当月の純設定額が+698億円(8本)と、前月6月の+0.5億円(1本)や、5月の+53億円(6本)、4月の+41億円(7本)を上回る大きさである。尚、「バランス型」と言うと、一般的な海外債ファンドや国内債ファンドなどを多々含む投資信託協会分類「バランス型」と混同するかもしれないこと、さらにイボットソン(ibbotson)やモーニングスター(Morningstar)などは「バランス型」を使わないことから、本コラムでは「アロケーション(資産複合)型」を見ている。

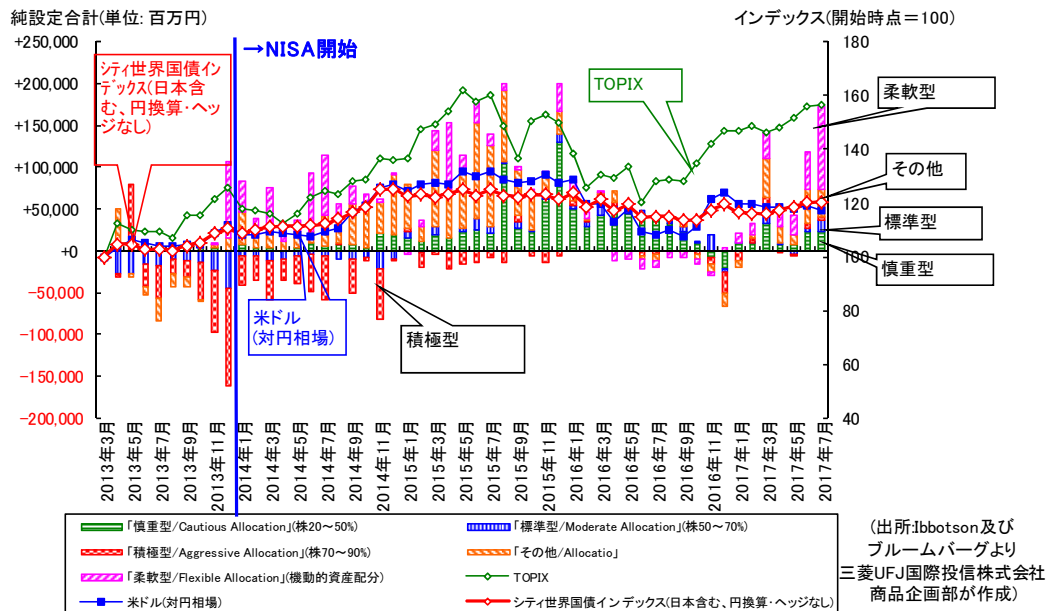
次頁グラフはアロケーション型ファンドの純設定推移だが、2017年7月にかけて柔軟型(機動的資産配分)の純流入が増えていることがわかる。「資産運用において複利効果を高めるには、ポートフォリオの価格変動の振れ幅を抑えることが大切になる。様々な資産を組み合わせたり、投資のタイミングをずらしたりする手法が有効とされるが、資産を適切に配分するのは容易ではない。個人投資家はバランス型投資信託を利用するのも一つの手だろう。基準価格の変動が大きくなった局面でリスクを抑えるタイプが人気を集めている。」(2017年8月3日付日本経済新聞～URLは後述[参考ホームページ]④)という通りである。



日本籍 アロケーション型投信の主要分類別純設定(推計)の推移
(2013年3月29日 ~ 2017年7月31日、月次データ)

*アロケーション型投信… 単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)
インデックス… TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本国内投信
月次・純設定
主要分類別



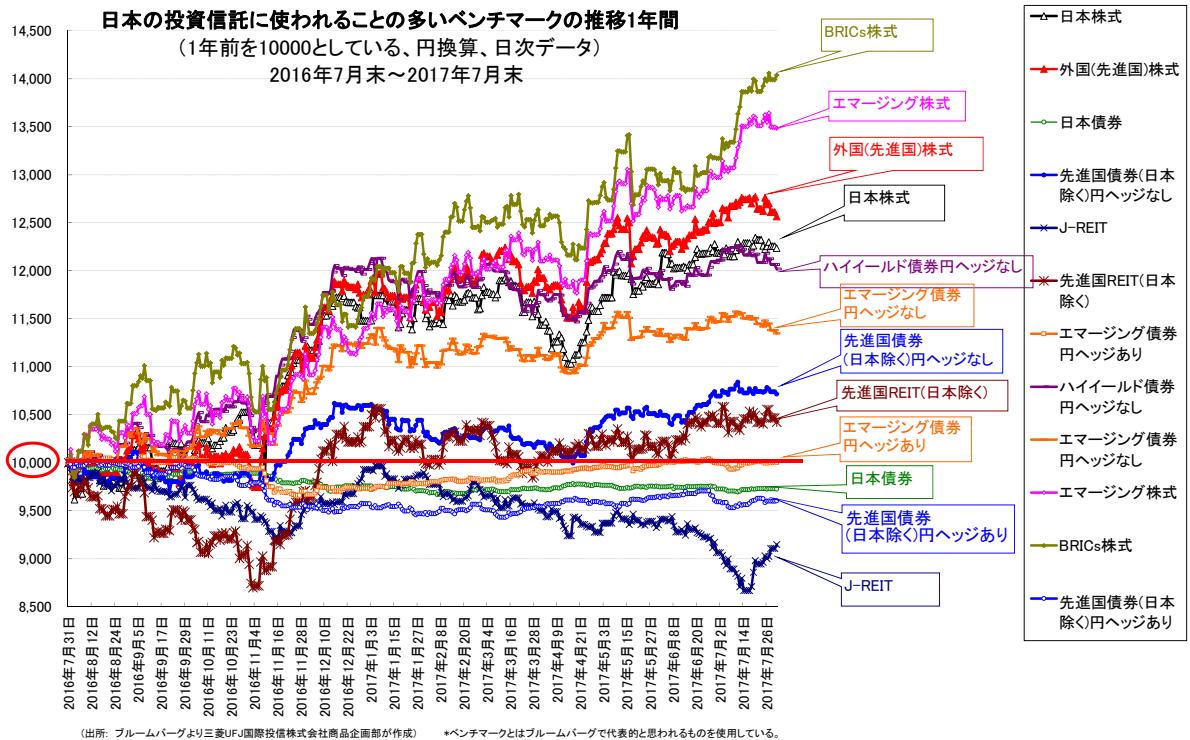
3番目に純設定が大きかったインド株は、7月に+769億円と2007年12月以来9年7カ月ぶりの大きさを5カ月連続の純流入だった。インド株人気については、「日本人投資家によるインド株・債券保有は6月末時点で130億ドル(約1兆4400億円)相当と、2012年からのデータで最高を記録した。…(略)…モディ首相が進める『前例のない』構造改革と比較的高水準の利回りがインドを新興市場の『スイートスポット』にしている。インドは7月1日、全国統一の物品サービス税(GST)を導入した。」(2017年7月25日付ブルームバーグ~URLは後述[参考ホームページ]⑤)と報じられていた。

2017年初から7月末までで+22%と上昇を続けるインドの代表的株価指数であるS&P・BSEセンセックスは、7月に前月比+5.15%と2016年3月(+10.17%)以来の大きな上昇となり、8月1日に32575.17と過去最高値を更新、中銀の利下げを受けて3日時点で-0.7%と下落した。ただ、インド株の純流入は足元やや鈍化している(7月+769億円←6月+738億円←5月+522億円←4月+225億円←3月+125億円←2月-10億円)。

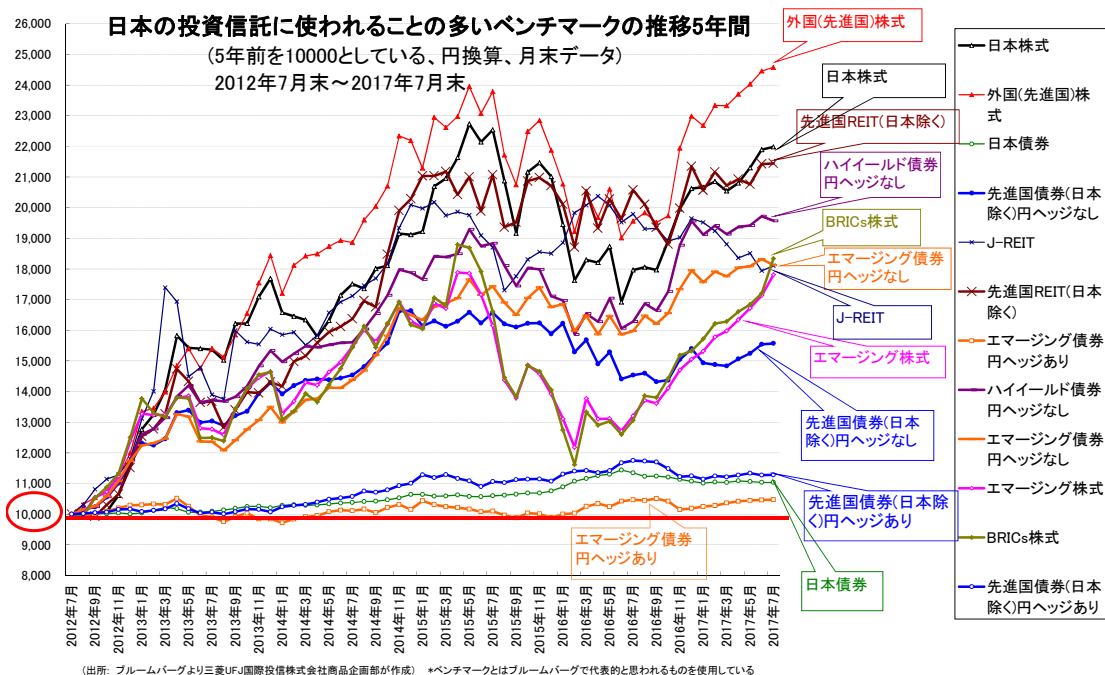
一方、日本株は7月の純設定が-297億円と13カ月連続の純流出だが、鈍化傾向だ(←6月-3092億円←5月-3654億円←4月-399億円←3月-786億円←2月-1683億円)。

日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たところ、次頁グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、先進国株式、日本株式、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング債、先進国債券となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。BRICs及びエマージング株式は3年でみれば、次頁グラフのベンチマークで上から6番目と7番目に良かったが、1年や2017年1月末からの半年、4月末からの3カ月、足元1カ月でみると最も良かった。前述した様に2017年7月の投信全体でグローバル株、インド株、エマージング債などは純設定が大きかったが、こうしたパフォーマンスの好調さによる所もあろう。

日本株のパフォーマンスは、5年で見れば、下記グラフのベンチマークで先進国株式に次いで2番目に良かった。1年や半年、直近1カ月ではBRICsやエマージング株、先進国株式に次いで良かった。

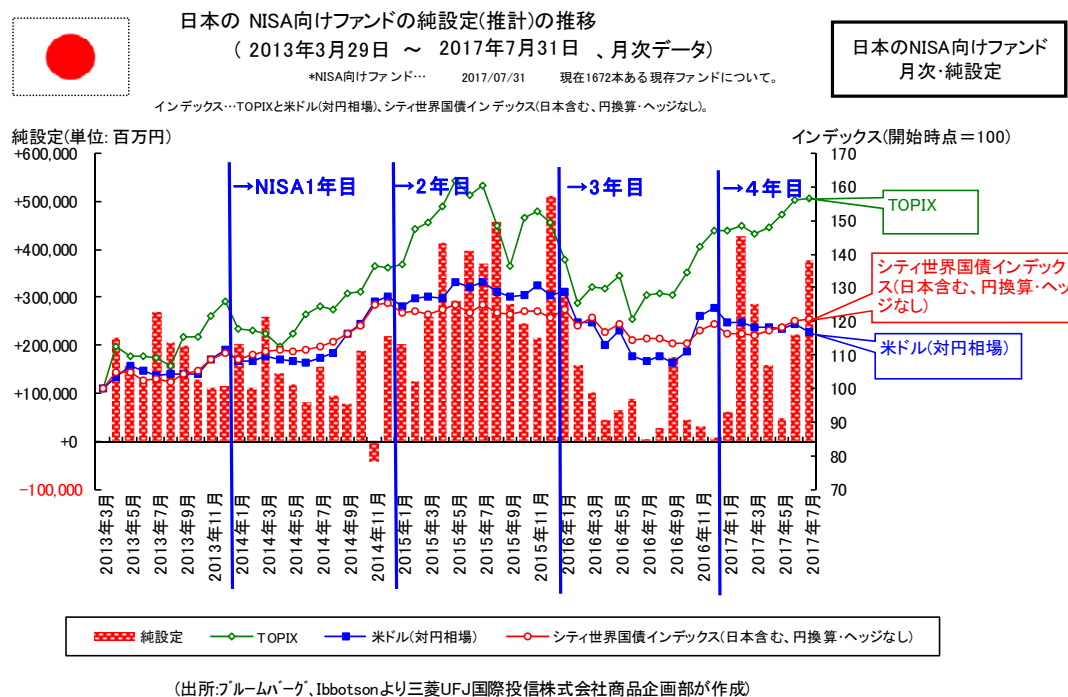


下記のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、先進国REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、BRICs株式、エマージング債券円ヘッジなしとなっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、5年では下記グラフのベンチマークで最も好く、3年では2番目、1年や2017年1月末からの半年では3番目に良かった。こうした安定的なパフォーマンスの好きがグローバル株への人気につながっている様に見える。



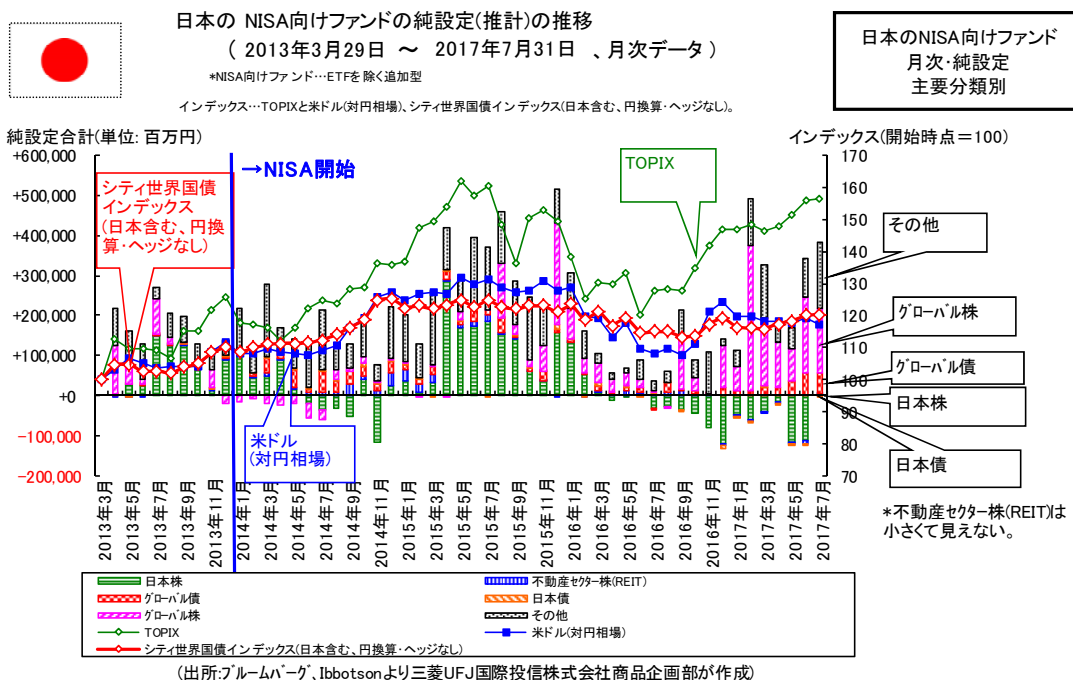
NISA の新規投資家はグローバル株・アロケーションファンド、グローバル債を志向

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。 **既存投資家の動向を示す投信全体では 2 カ月連続の純流入となったが、NISA 向けファンドの純設定は、最新 2017 年 7 月に+3773 億円と 2017 年 2 月以来の大きな純流入額で、2014 年 12 月以降 2 年 8 カ月連続の純流入である。**



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]⑥)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017 年 7 月 31 日時点で 1672 本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、**2017 年 7 月の純設定 1 位はグローバル株 (2 月から 6 カ月連続 1 位)、2 位はアセットアロケーション柔軟型(同 3 位)、3 位はグローバル債(同 2 位)、4 位はエマージング株(同 4 位)、5 位は CB(同 29 位)だった(次頁グラフ参照。アセットアロケーション型とエマージング株、CB は「その他」に含まれる)。**



投信全体と同様、NISA 向けファンドでも7月の純設定最大はグローバル株、次いで、アセットアロケーション柔軟型である。グローバル株は2016年9月から11カ月連続の純流入のなか、2017年の年初来(2017年1~7月)の純設定額は既に+1兆1354億円と前年2016年(1~12月計+5027億円)の2倍を超える勢いである。

一方、投信全体では純流出継続で、NISA 向けでも2017年は既に6月までで-3936億円と、2016年(-1667億円)を超える流出拡大であった日本株は、2017年7月に+23億円と2016年6月以来13カ月ぶりの純流入となった。

ネット証券の投資家は日本株・グローバル株を志向

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2017年8月3日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。

ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑦)。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新2017年7月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・3・4位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・4位はインデックスファンド)となっている。前月6月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・3位は日本株ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・5位はインデックスファンド)だった。また、週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週7月24日から7月28日までは、1・3・4位は日本株ファンド、2・5位はグローバル株ファンド(2・4・5位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の6月26日から6月30日までは、1・4・5位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・5位はインデックスファンド)だった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週7月24日から7月28日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3・4位は日本株ファンド、2・5位はグローバル株ファンド(2・4・5位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の6月26日から6月30日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3・5位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、7月24日から7月28日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・5位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の6月26日から6月30日までのNISA投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2・5位はグローバル株ファンド、4位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・5位はインデックスファンド)だった。

<ジュニアNISA投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週7月24日から7月28日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・4位はグローバル株ファンド、2・3・5位は日本株ファンド(2位を除きすべてインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の6月26日から6月30日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4・5位はアセットアロケーションファンド(2~4位はインデックスファンド)だった。

<NISA積立~2017年8月3日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2017年7月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2~4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週7月24日から7月28日までのNISA口座では、1・5位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、3位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2~5位はインデックスファンド)。

ネット証券では、前月に引き続き日本株、次いでグローバル株、アセットアロケーションの人気が見られるなか、前月に比べて日本株への人気が一層強まっているようである。インデックスファンド志向も継続している。以上、NISA含めて金融商品購入を検討する場合に参考となれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①2017年7月7日付金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」(平成29年3月末時点)...

「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170707-1.html>」

②2017年3月6日付日本版ISAの道 その174「NISAが1000万口座台で10兆円弱!ジュニアNISAが20万口座弱で300億円弱!!そのNISAで投資されているのは、グローバル株や日本株、人工知能/AI関連ファンド!!!」...

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170306.pdf」

- ③2017年7月21日付日本経済新聞電子版「投信の新規設定回復 7月40本程度、長期運用タイプけん引」…
「http://www.nikkei.com/article/DGXLASGD18H85_R20C17A7MM0000/」、
- ④2017年8月3日付日本経済新聞「バランス型の資金流入額 リスク軽減タイプ、上位投信番付」…
「<http://www.nikkei.com/my/#/article/DGXXKZO19589210T00C17A8ENK001/>」、
- ⑤2017年7月25日付ブルームバーグ「『アベノミクス』から『モディノミクス』へー日本のインド株投資拡大」…
「<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2017-07-25/OTMP386K50XS01>」、
- ⑥2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、
- ⑦SBI証券のNISA ランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、
楽天証券のNISA ランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」、
マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。